自衛隊の現場

船岡（宮城県）
災害対策で地域との連携を強化
第2施設団が船岡駐屯地で連絡会を開催

陸自第2施設団（団長・黒羽明陸将補）は6月14日、船岡駐屯地で災害対処連絡会を開催しました。

この連絡会は、宮城県仙南地区の地方公共団体や関係機関と自衛隊との関係を強化するため、年に1度開催されています。平成24年度から始まり、今年で12回目となります。

今年の連絡会には、仙南地区の地方公共団体をはじめ、国土交通省、環境省、警察、消防、自衛隊家族会、隊友会など多くの関係者が参加し、有意義な情報交換の場となりました。近年、地震や台風、豪雨などの災害が頻発しており、地方公共団体や関係機関との連携がますます重要になっています。

自衛隊は、国民の生命と財産を守るため、災害初期段階での迅速な情報収集や人命救助、被災者支援を行う責務があります。そのため、地方公共団体からの要請やニーズを積極的に収集し、迅速な初動対応が求められます。連絡会では、自衛隊や地方公共団体、関係機関からの情報発信や意見交換が行われました。

特に、関係機関からは能登半島地震の活動概要や教訓が共有され、自衛隊からは「みちのくALERT2024」の概要説明が行われました。意見交換では、災害発生直後の初動の重要性や連携強化のための「連絡員派遣」や「平素からの連携要領」について議論されました。

第2施設団（船岡駐屯地）は、風水害や台風シーズンの到来を前に、関係者との顔の見える関係の構築と能力の相互理解に努めています。さらに「組織と組織が繋がる」「計画と行動が繋がる」「過去から未来へ繋がる」という3つの「繋がる」をコンセプトに、地方公共団体や関係機関との連携強化を図り、災害時の実動的な相互連携をさらに強化していきます。

映像伝送装置の紹介

百里（茨城県）
第7航空団、自衛隊フェアで装備品展示
ショッピングセンターで多くの来場者が参加

空自第7航空団は5月25日、茨城地方協力本部が開催する「自衛隊フェア」で装備品展示をしました。会場は茨城県鹿嶋市のショッピングセンターチェリオの駐車場で、軽装甲機動車と野外炊具1号（改）が展示され、説明が行われました。当日は天候にも恵まれ「自衛隊フェア」には約600人が来場し、そのうち約150人が第7航空団のブースを訪れました。来場者は隊員に質問をしたり、記念撮影を楽しんだりして、航空自衛隊への理解と親近感を深めました。

隊員たちは来場者に親切に対応し、質問には丁寧に答え、自衛隊の日常業務や装備品の役割について詳しく説明しました。イベントは、地域との絆を一層深める良い機会となりました。

野外炊具1号（改）の前で

東京都
首都機能維持のため第1師団が演習を実施
現地・現物を用いた訓練で対処能力を強化

陸自第1師団は5月8日から7月2日までの約2カ月間、首都機能維持に必要な作戦遂行能力の向上を目的に演習を実施しました。

演習は自衛隊の駐屯地や演習場だけでなく、現地・現物を使用し、関係機関も参加する形で行われました。

これにより、実際の事態対処任務の遂行および継戦能力の向上を図り、戦える部隊の創造に努めました。

6月10日には都営大江戸線都庁前駅で、第1特殊武器防護隊を主力とし、第1普通科連隊、第1後方支援連隊および第126地区警務隊と連携して化学剤対処訓練を実施しました。

訓練では地下鉄各線で不審な液体が入った瓶が同時に複数箇所で確認され、多数の乗客に症状が発生し、電車が各駅で緊急停車した想定で行われました。

都営大江戸線都庁前駅において訓練

弘前（青森県）
課程開始式で自衛官のプライドを育む
第39普通科連隊が新たな一歩を応援

陸自第39普通科連隊（連隊長・重沼文洋1等陸佐）は7月2日に駐屯地第2教場で「新隊員特技課程および一般陸曹候補生課程（基本軽火器・基本迫撃砲）後期教育開始式」を挙行しました。

当日は連隊長、駐屯地最先任上級曹長、副連隊長、各中隊長が参列し、新隊員16人の後期教育開始を見守りました。式の中で、新隊員を代表して軽火器区隊の村上2等陸士が力強く宣誓しました。

連隊長は訓示で、皆隊を歓迎するとともに「本教育で自衛官としてのプライドを育み、皆さんの大いなる成長と活躍を期待する」と激励しました。

これから新隊員たちは、前期教育で培った知識・技能を活かし、仲間と共に各種特技を修得し、自衛官としてのプライドを身につけていくことになります。

訓練開始式の様子

福岡県
第4師団が第1次訓練検閲を実施
日出生台演習場で部隊の練度向上を図る

陸自第4師団は6月3日から10日までの間、日出生台演習場で令和6年度第1次師団訓練検閲を実施しました。受閲部隊は第16普通科連隊、第4偵察戦闘大隊、第4施設大隊、第4特殊武器防護隊の4個部隊でした。

今回の検閲では、2月に参加したHTC訓練（高強度戦術訓練）の成果を踏まえ、部隊のさらなる練度向上を図るため、情報収集能力、遠戦火力、宇宙、サイバー、電磁波、および化学といった領域横断作戦能力の強化を目指しました。

具体的には、第16普通科連隊および第4偵察戦闘大隊がこれらの能力を付与され、第40戦闘団を直接支援する第4施設大隊および第4特殊武器防護隊が対抗しながら生き残り、戦い続ける訓練を行いました。検閲の主要項目は、指揮官の状況判断、諸職種協同を含む各種戦闘力の組織化、および隊員の戦闘技術でした。

第16普通科連隊第2中隊第2小隊長の清里陸曹長は、「どんなに厳しい状況でも、決して諦めずに任務を達成するという気持ちで最後まで戦いました。この気持ちを今後の自衛隊生活において後輩隊員に引き継いでいきたい」と述べました。

今回の訓練検閲を通じて、さまざまな教訓を得た第4師団は、陸上自衛隊の中でも防衛の最前線を担う師団として、抑止力および対処力の向上を図るため、日々厳しい教育訓練に励み、さらに精強な部隊へと進化し続けてまいります。

戦闘指揮所の構築中

東千歳（北海道）
機械化部隊の対抗演習が実施される
実戦的な訓練で戦闘指揮能力を強化

陸自第7師団は6月5日から24日の間、北海道大演習場恵庭・千歳地区において、令和6年度機械化部隊近接戦闘訓練評価支援センター方式による対抗演習（ACI－TESC）を実施しました。

この訓練は、第7師団長・松永浩二陸将を担任官とし、レーザー光線を用いた交戦訓練装置（パトラー）を使用して実施されました。中隊長・小隊長の戦闘指揮能力と各職種の戦闘力を組織化する能力の向上を目的としています。

今年度は、北海道に所在する各師・旅団の普通科中隊、戦車中隊、機動戦闘車中隊など27部隊が「攻撃」「防御」または「遭遇戦」の課目に参加しました。

訓練期間中、各部隊はそれぞれの任務を達成するため、空地からの情報収集による態勢把握、敵の弱点を突く火力戦闘・近接戦闘を組み合わせ、必勝の信念の下、全力で戦いました。これにより自部隊の現状を正しく認識し、新たな訓練資源を得ることができました。

また、第7師団は訓練状況を報道各社に公開し、演習場近隣の自治体や協力団体の皆さまに研修を実施しました。この研修により師団の活動に対する理解を深めていただきました。

第7師団は、引き続き実戦的な訓練を実施し、いかなる任務も完遂し得る陸上自衛隊唯一の機甲師団として進化を続けていきます。

林内から敵戦車を狙う隊員

帯広（北海道）
第3中隊および情報小隊の訓練検閲実施
敵を撃破し、任務を完遂する執念

陸自第4普通科連隊（連隊長・小林憲正1等陸佐）は7月2日に上富良野演習場において、令和6年度第3中隊および情報小隊の訓練検閲を実施しました。

この訓練検閲は第6即応機動連隊の1個中隊との遭遇戦において、普通科部隊の戦闘訓練評価支援センター方式（i－TESC）を活用し「戦闘団から先遣され、主力の作戦を容易化する任務を付与された普通科中隊および情報小隊」という想定に基づき、その練度を評価・判定するものです。

訓練検閲の開始にあたり、統裁官である連隊長は「生き残り、敵を撃破せよ」と「作戦下の安全管理を徹底せよ」の2点を要望しました。第3中隊長・大槻1等陸尉および情報小隊長・船垣1等陸曹を中心に、隊員たちは限られた人的戦闘力の中で「必ず任務を達成する」という強い執念を持ち、自分の職責を全うし、これまで積み上げてきた練成成果を発揮して任務を完遂しました。

敵情を報告中の隊員（パトラ装着）

船岡（宮城県）
自衛官としての姿を再認識
令和6年度予備自衛官招集訓練

陸自第312ダンプ車両中隊（中隊長・中山昌平1等陸尉）は6月13日から17日までの間、船岡駐屯地および利府射撃場において令和6年度第1回予備自衛官招集訓練を実施しました。

中隊は、予備自衛官66人（うち女性2人）に対し、精神教育、予備自衛官と常備自衛官との懇談会、射撃検定、体力測定、特殊武器防護、格闘訓練、警備訓練など、実戦的な訓練を行い、有事の際に必要な各種技能の向上を図りました。

訓練担任官は安全管理に万全を期し、招集訓練中に事故を1件も発生させることなく任務を完遂しました。

訓練を担当した隊員も達成感とやりがいを感じるとともに、指揮および指導能力を向上させることができました。

また、新しい知識と技能を修得しようと積極的かつ真剣に訓練に取り組む予備自衛官の姿を見て、われわれ常備自衛官も自衛官としてあるべき姿を再認識しました。

最後に、日々ご多忙の中、今回の招集訓練に参加いただいた予備自衛官の皆さまに心より感謝申し上げます。

射撃予習を行う予備自衛官

射撃検定

国分（鹿児島県）
一般陸曹候補生165人が修了
教育大隊での成長を胸に、後期教育へ進む

陸自第113教育大隊（大隊長・山下2等陸佐）は6月29日、国分駐屯地で第22期一般陸曹候補生165人の修了式を挙行しました。多くのご家族が見守る中、厳粛に行われた修了式では成長した候補生の姿に感動の声が上がりました。

大隊長は式辞で「諸官は将来の陸曹としての自覚と誇りを持ち、同期と助け合い、励まし合いながら日々真剣に教育訓練に臨んだ。その成果を胸に、後期教育でも全力で取り組んでもらいたい」と激励しました。

修了式後には、ご家族との会食や懇談の時間が設けられました。候補生たちは家族から前期教育の慰労と後期教育に向けての激励の言葉を受け、記念撮影を楽しみました。今後、候補生たちは各地の職種部隊で約3カ月の後期教育を受け、部隊配置される予定です。

多くのご家族が見守る中で修了式

福知山（京都府）
令和6年自衛官候補生課程修了式
第7普通科連隊の35人が新たなスタート

陸自第7普通科連隊（連隊長・佐藤教人1等陸佐）は6月23日、福知山駐屯地で「令和6年自衛官候補生課程修了式」を挙行しました。

約3カ月前に期待と不安を抱えて入隊した35人の候補生が、多くの来賓と家族に見守られながら課程を修了しました。

修了申告

武山（神奈川県）
高等工科学校、信明中学校を熱心に支援
自衛隊生徒が講話、将来への志を語る

陸自高等工科学校（学校長・隈村和也陸将補）は6月21日に自衛隊長野地方協力本部と連携し、長野県松本市立信明中学校で総合的学習の時間を支援しました。

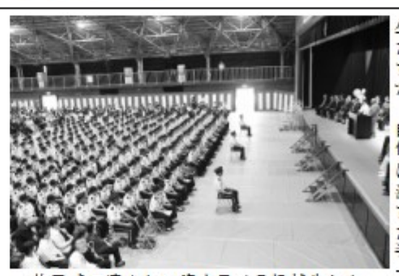
この取り組みは、信明中学校における「総合的学習の時間」で、高等工科学校出身の手塚生徒が中学生および教員約10人に向けて講話を行ったことに始まります。

手塚生徒は、高等工科学校での厳しい訓練を通じて得た社会人としてのスキルや、将来の夢である陸上自衛官としての志を率直に語りました。また、講話の終わりには、家族や友人の大切さ、自らの行動の重要性について後輩たちにメッセージを送りました。

中学生たちは手塚生徒の話に熱心に耳を傾け、教員たちはその成長を感心して眺めていました。

今後も、高等工科学校は学校の魅力を積極的に発信していく予定です。

手塚生徒による講話


修了式で凛々しい姿を見せる候補生たち

えびの（宮崎県）
曹候補生課程修了式、堂々とした姿を披露
えびの駐屯地で54人が修了し各地へ

陸自第24普通科連隊（連隊長・大江良治1等陸佐）は6月23日に宮崎県えびので一般陸曹候補生54人の修了式を挙行しました。

式はご家族および来賓の方々が見守る中で行われ、一般陸曹候補生は3カ月前とは見違える堂々とした姿を見せました。

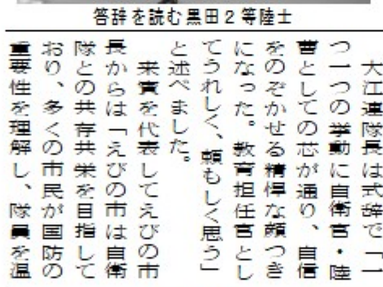
式はえびの市の中学校吹奏楽部による国歌の演奏により始まり、参加者全員で斉唱しました。続いて行われた告辞では、一般陸曹候補生のきびきびとした動作と力強い返事に3カ月の成果が見られました。

大江連隊長は式辞で「一つ一つの挙動に自衛官・陸曹としての芯が通り、自信をのぞかせる精悍な顔つきになった。教育担任官としてうれしく、頼もしく思う」と述べました。

来賓を代表してえびの市長からは「えびの市は自衛隊との共存共栄を目指しており、多くの市民が国防の重要性を理解し、隊員を温かく迎えています。将来さらに立派になって、この地に帰ってくることを楽しみにしています」との言葉をいただきました。

答辞を務めた黒田2等陸士は「えびのでの3カ月は終生忘れられません。私たちは、立派な自衛官となり、それぞれの任地でさらに精進を重ね活躍することを誓います」と力強く述べ、かけがえのない日々を振り返りながら感謝の気持ちを表しました。

式の終了後は、家族と記念撮影をしたり、同期で抱き合って修了の喜びをかみしめたり、お世話になった班長たちへお礼を伝えたりと、それぞれの時間を過ごしました。


答辞を読む黒田2等陸士

問題

数字　頭の体操㉒

時計算の問題、第2弾です。

6時20分から最初に長針と短針が重なり合うのは何分後の何時何分でしょうか。

（解答は7面に）

（出題・解説：antaka）

※漢字あそびはお休みします。